

「ありのままの靖國神社」～それを通じて見えてくる「日本」～

2017年11月26日(日)(一社)日本観光通訳協会(JGA)

第一支部研修終了レポート

平成29年11月26日(日)12:00から16:00まで靖國神社におきましてJGA第一支部主催の靖國神社研修が開催されました。出席者は48名(JGA会員34名、非会員12名、運営委員2名)、天気は快晴。境内の桜の紅葉は終わりに近いながらもまだ美しく、日曜日の11月ということもあり、靖國神社は七五三を祝う家族や参拝者など、多くの人々にぎわっていました。靖國神社は明治二年(1869年)近代国家建設のために亡くなられた人々の霊を慰めるために創建された「東京招魂社」が起源です。明治12年(1879)に「靖國神社」と改称され、その後の戦争で祖国に殉じた方も含め246万6千余柱の神霊を祀り、今に至っています。



講師は靖國神社展示史料課の権禰宜、白い着物と浅黄色の袴姿の高橋大輔様です。

研修は二部構成で行われました。まず第一部では、参集殿にて靖國神社と参拝の仕方に関するビデオを見た後、本殿内での参拝(昇殿参拝)を致しました。参拝前は手水舎で清め、静謐で神聖な雰囲気が漂っている本殿へ進みました、参加者から3名が代表して玉串を捧げ、恭しく終了しました。

12:30からはイヤホンガイドを装着し、高橋様のご案内で内苑を見学しました。第一・第二鳥居、近代陸軍の父 大村益次郎の像を遠くに眺め、次いで神門、能楽堂、拝殿、到着殿、相撲場、かつて靖國刀を鍛えていた行雲亭、招魂斎庭など、ゆっくり歩いて回りました。



13:30からの第二部は遊就館の見学です。玄関ホールには沖縄戦で使われた大砲や、復元された零式艦上戦闘機(ゼロ戦)、泰緬鉄道で使われたC56型31号機関車が展示されており、戦争の歴史を垣間見ることができます。



展示室は19室あり、武具の展示から近代の戦争の歴史資料、最後は亡くなった人々(英霊)の遺書や遺品、英霊に捧げられた花嫁人形の展示等がありました。いつの世も大切な人を思う気持ちは同じ、たくさんの人々の思いが溢れている空間でした。

先人の国を守る気持ちと平和への願いを受け取り、次の世代へとつなげていくことが大事だと思いました。

その後受講者からの質問に対しご丁寧にご回答いただき、16:15に終了しました。



今回の研修を通じ、参加者は、靖國神社が日本の近現代史における重要な場所なのだと改めて認識されたことと思います。通訳案内士として、この場所を大切に、誤解のないように海外のお客様にお伝えしていきたいものです。